

高温が続く予報！きめ細かな水管理を！ 斑点米カメムシ類多い！防除対策を徹底！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

気温の高い日が続く見込みです！きめ細かな水管理の徹底で、高品質米に仕上げましょう！
斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。2回の基本防除を徹底しましょう。

◎ 今後の気象

7月28日発表の1か月予報（7月30日～8月29日）では、向こう1か月は暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い見込みです。

◎ 当面の技術対策

(1) きめ細かな水管理の徹底

- ・ 穂揃期までは、湛水状態を保ちます。
- ・ 猛暑条件下では、根の機能低下が著しくなります。穂揃期後は、きめ細かに間断かん水、飽水管理を徹底して根の機能維持を図りましょう。また、水を張ったままにはせず、冷たい水との入れ替え等で、水温・地温の低下に努めましょう。
- ・ 出穂後10日間の日最高気温が高いほど胴割粒の発生が高まり（図1）、出穂後6～10日頃の高温が最も胴割粒の発生に影響します（図2）。
- ・ 出穂後20日間の平均気温が28℃以上、最低気温が24℃以上と高い場合、白未熟粒の発生が増加します（「はえぬき」H11新しい技術情報）。

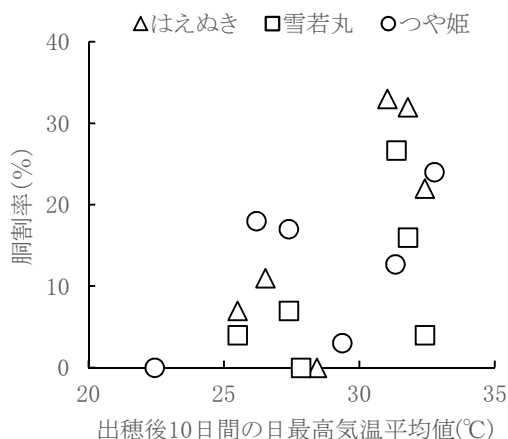


図1 出穂後10日間の日最高気温平均値と胴割率との関係 (R3年 農総研セ)

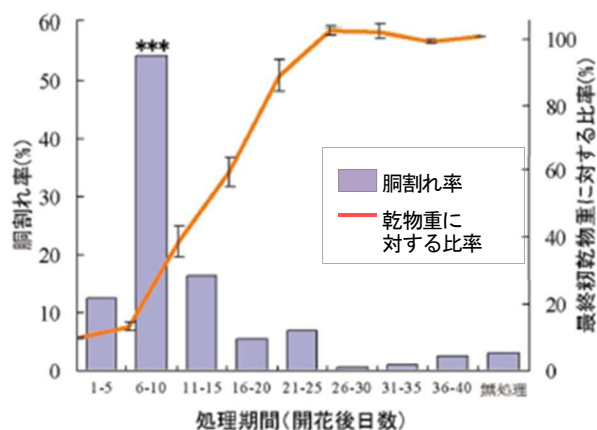


図2 高温処理した水稻玄米の胴割れ率と籾乾物重の推移 (H16年 東北農研)

(2) 斑点米カメムシ類防除の徹底

- ・ 斑点米カメムシ類の発生は、平年より非常に多く、7月21日に注意報第1号が発表されています。穂揃期及び穂揃期7～10日後の2回の基本防除を徹底しましょう。
- ・ 基本防除後も水田内で斑点米カメムシ類の生息が確認された場合は、防除を追加します。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！